

## 5.10春のナースウエーブ@四条烏丸



5月10日（土）午後、春のナースウエーブを行いました。四条烏丸にて署名宣伝行動を行い、全体で35人の参加でした。11人の看護師さんから、看護現場の働き

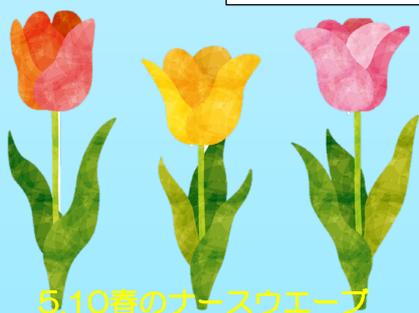
方や看護への思いについてリレートーク形式でアピールしました。1時間ほどの宣伝でしたが、署名も46筆集めることが出来ました。宣伝後に、働く場所が違う看護師さん同士が「厳しい状況はみんな同じ、それでもみんながんばっている」とお互いの奮闘をたたえあっていたのが印象的でした。わたしたちは、微力だけれど決して無力じゃない。これからも共に声をあげ続けましょう！



### ～リレートークの中で語られた現場実態や看護への思い（順不同・一部抜粋）～

「人員不足から往診に対応ができず、患者が放置されています。在宅にも医療崩壊が。若い職員に在宅医療の魅力ややりがいを語れないし、看護師を誘うことできない。8月末に退職する看護師と話をした。人員不足で体調不良でも年休を使えず、公休も働く状態が半年以上続き、心身ともに疲れ果てて辞めていった。自分の体調より業務優先され、大切にされていない。残る看護師も限界ギリギリで働いていることを知っているから、辞めるのを止められない」

「コロナ禍の時は訪問看護ステーションで働き、コロナ患者も看ていましたが、コロナの手当はもらったことはありません。昨年、ペア評価料はできましたが、手当てで支給です。看護師は賃金が高いと思われがちですが、有害である夜勤の手当がはいるから。夜勤をしていた時から5～6万円違います」





～リレートークの中で語られた現場実態や看護への思い(順不同・一部抜粋)～

「小学校6年・3年の子どもがいます。子どもにとって小学校6年・3年のゴールデンウィークは1度しかないんですが、私の職場でコロナクラスターになり、私は仕事となり、家族みんなで出かける計画もなくなった」

「病床1床当たり400万円強を支給する施策を国は強行。7,000床の病床削減を進めています。赤字で悲鳴を上げる病院を病床削減させる誘導策であり、地域医療を崩壊させ、支援でも適正化でもない」

「この3月末で、また大切な仲間がたくさん職場を去っていきます。どうして、こんな扱いをされるんだろう。毎日汗にまみれて必死に働いているけど、とっても軽んじられていると感じます。看護師にはそんなに価値がないと思われているんですよね。私たちは専門職と思って頑張ってきました。でももう疲れしました。頑張れませんが、これが看護に対する評価なんですよ。そうやって辞めていきます」



「看護師として働く中で、患者さんや家族にゆっくり関われないことはホントにつらいこと。なぜ看護師になったのか、何がしたかったんだろうとそんな風を感じてしまいます」



6月から

2025いのちまもるキャラバン行動ついにスタート!

京都医労連のいのちまもるキャラバン行動は1989年から京都府内の病院や老健施設、地区医師会、医療関係団体などを訪問しています。経営者との懇談を通じ、経営状況や人員体制、そして国や京都府施策について意見交換し、医療・介護・社会保障の充実を求め、幅広い共同を生み出してきました。

日程は、京都市・南部の訪問を6月4日(水)・13日(金)、18日(水)・25日(水)・7月2日(水)・9日(水)・11日(水)、北部の訪問を6月13日(金)、7月4日(金)とします。

キャラバン行動の成功のために、ぜひ多くの組合員が行動に参加できるように議論をお願い致します!

京都医労連  
SINCE 1987  
2025いのちまもる  
キャラバン行動

京都府内の病院、老健施設、地区医師会、医療関係団体などを訪問し、経営者との懇談を通じ、経営状況や人員体制、そして国や京都府施策について意見交換し、医療・介護・社会保障の充実を求め、幅広い共同を生み出してきました。

6/4~7/11

※基本1日の行動になります

参加申込は所属の労働組合まで!

5/27(火) 19時~意思統一集会 京都府立総合医療センター 新館のポイントビル

ラポール京都6階orZOOM

ID: 815 8901 6416 / J12: 688838